

東京支部 2月定例会 活動報告

1. 日時：2月26日 19:00～21:00
2. 会場：大妻女子大学
3. 参加人数：14人
4. 司会：笠原秀浩（北区立滝野川小学校）
講師：石井雅幸先生（大妻女子大学）
矢野博之先生（大妻女子大学）

内容

1. 岩崎泰久先生（千代田区立富士見小学校）実践報告

協議内容：理科支援員を活用した理科授業の在り方について

単元名「ものの溶け方」

岩崎先生・手塚先生（理科支援員）より、日ごろの授業や、研究授業時に理科支援員をどのように活用した活動を行っているか報告。二人体制による安全性の確保などのメリットのほか、授業への参加の在り方、仕事の割り振り方などの課題点が報告された。

その後は、各市区より、理科支援員の活動状況について情報交換し、今後の理科支援員の授業へのかかわり方について協議した。

講師の先生より

矢野先生

- ・キーワードは「見通し」である。学校としての「見通し」・それを理解できる理科支援員自身の「見通し」の2つが必要。本日の情報交換で各学校の実態がつかめた。

石井先生

- ・コーディネーターの存在が必要である。フレキシブルに人材を学校現場に導入し活用していく制度が必要である

2. 笠原秀浩先生（北区立滝野川小学校）実践報告

単元名「電気の利用」～JEMAプログラムを活用して～

協議内容：「発電 発熱・変換 蓄電 利用」の単元の流れについて

教材の特性について

子供たちの思考の流れにそってどのような単元構成にすることが望ましいのか、各校の実践なども交えて協議を行った。

コンデンサ(キャパシタ)・LED・手回し発電機など使用した教材それぞれの特性や、教材として購入するよりも自分で作ることにより費用を抑えられることなどについて

報告があった。

3. 福田章人（千代田区立九段小学校）先生より 理科授業錬成講座 第3回目

「見通しをもつとは？～実験結果の予想がポイント～」

見通しをもって問題解決をおこなうこととは、子供の主体的な問題解決活動の流れが存在することについて学んだ。また、見通しをもった実験計画を企画することで、考察方法が明確になることを学んだ。

今年度を総括しての指導・講評

矢野先生

- ・教材に対する造詣、教師として授業を構成する理解に深まりがみられた。
- ・来年度は焦点化した研究を進めてほしい。

石井先生

- ・自分もソニーで学ぶことが多かった。
- ・今年度は、参加者にとって即座に勉強となるもの提供できた。来年度は一つのテーマを深めていくことで、魅力的な研究会になっていく
- ・福田先生の連続講座は、子供の主体的な問題解決を原点から見直していくことであり、クリティカルにつながっていく。それを実践としてつなげていくことが必要である。

謝辞 東京支部支部長 石川喜三郎先生（世田谷区立深沢小学校校長）

今年度は6月に若手研修会に実施することができた。

指導案検討や先生方の実践など、それぞれ価値のある時間を過ごすことができた。

来年度も大切にしていきたい

ソニーは何を言ってもいい、自由度の高い研究会である。新しい仲間が、「もう一回行ってみよう」と思える研究会にしていきたい。

